

千葉県松戸市小金方言の 比喩語について

早野 慎吾

はじめに

1. 調査対象地：千葉県松戸市小金

位置：松戸市は千葉県の北西部に位置し、東は沼南町と鎌ヶ谷市、西は江戸川を挟み、東京都葛飾区と埼玉県三郷市、南は市川市、北は流山市と柏市に隣接している。調査対象地の小金は松戸市の北西部に位置する。

交通：鉄道は東京都と茨城県をつなぐJR常磐線を含む六本の路線が通っている。また道路としては市の中心に国道6号線（水戸街道）が縦断している。

歴史：水戸街道の宿場町であった松戸は、昭和18年に松戸町、高木町、馬橋村が合併して松戸市となる。

人口：昭和18年当時の人口は約7万人であったが、平成5年1月現在では462160人（男235197人・女226963人、世帯数169096）となっている。昭和40年頃より東京通勤者の移住が急激に増加したことが大きな要因である。

基幹産業：農業。東京近郊の農業として野菜中心の栽培がなされている。特産として「樋野口のわかぶ」や「小金の葉ねぎ」などがある。

2. 調査年月日時：平成5年2月10日 午後1時00分～午後3時30分

3. 話者：谷口年江（女） 昭和9年6月1日生（満58歳） 他での居住経歴無し。

調査時において、谷口寛（昭和4年3月10日生）が同席した。

4. 調査者：早野慎吾 鈴木優子

調査場所：話者宅

5. 調査方法：質問紙法による面接調査。

6. 記述法について：比喩語と認められない語、もしくは比喩語でも共通語形と一致する語（音韻変化による訛語を含む）は括弧で囲んだ。回答例が無かった場合は（N.R.）と表記した。音声記号、アクセントは録音を聞き返し表記した。ただし当方言の上昇（↑）は音韻論的に有意義なアクセントではなく、句音調（上野1984その他）である。

I <自然現象>

1) 日照り雨 カサイラス [ka↑ sai↑ razü] <名> 老年層使用。頻度稀。
雨は降っていてもすぐに止むので、傘がいらないため。

2) 入道雲 ライサマグモ [ra↑ isamaju↑ mo] <名> 老年層使用。

- ライサマ (雷様) の居る雲。雨に雷が伴うことが多いため。
- 3) 旋風 (ツムジカゼ [tsü^ɾ muʒika^ɾ ze] <名>)
- 4) 霜柱 (タッペ [ta^ɾ ppe] <名>)
- 5) 氷柱 タランボー [ta^ɾ rambo:] <名> 老年層使用。頻度稀。
垂れた棒の意味。
- 6) 北斗七星 (N.R)
- 7) すばる (N.R)
- 8) 流れ星 (ナガレボシ [na^ɾ gare^ɾ boçi] <名>)

II <動物>

- 9) かわはぎ (カワハギ [ka^ɾ wahaçi] <名>)
- 10) ひらめ (ヒラメ [çi^ɾ rame] <名>)
- 11) ひきがえる (ガマガエル [ga^ɾ maga^ɾ eru] <名>)
- 12) 青大将 (蛇) (アオダイショウ [a^ɾ oda^ɾ içø:] <名>)
- 13) とかげ (トカゲ [to^ɾ kage] <名>)
- 14) かまきり カマキリゴンベー [ka^ɾ makirigo^ɾ mbe:] <名> 老年層使用。
ゴンベー (権兵衛) とは怠け者の意味。かまきりはほとんど動かないため。
- 15) みずすまし (ミズマシゲンゴロー [mi^ɾ zümaçi geŋgoro:] <名>)
- 16) きつつき (キツツキ [ki^ɾ tsü^ɾ tsüki] <名>)
- 17) せきれい (セキレー [se^ɾ ki^ɾ re:] <名>)
- 18) ふくろう (フクロ [ɸy^ɾ ku^ɾ ro] <名>)
- 19) さなぎ ニシドッチ [ni^ɾ çi do^ɾ ttçi] <名> 老年層使用。
掴むと西を指し示すといわれているため。「西どっち」とさなぎに問いかけると西を指し示すという。

III <植物>

- 20) 馬鈴薯 (ジャガイモ [dʒa^ɾ jaimo] <名>)
(バレージョ [ba^ɾ re^ɾ :çç] <名>)
- 21) とうもろこし (トンモロコシ [ɾ^ɾ tommo^ɾ rokoçi] <名>)
- 22) いんげん豆 (エンゲンマメ [e^ɾ ŋem^ɾ mame] <名>)
- 23) そら豆 (ソラマメ [so^ɾ ra^ɾ mame] <名>)
- 24) 木くらげ (キクラゲ [ki^ɾ ku^ɾ rage] <名>)
- 25) げんのしょうこ (ゲンノショウコ [ge^ɾ nnoçø^ɾ :kø] <名>)
- 26) どくだみ ジゴクソバ [dʒi^ɾ çokuso^ɾ ba] <名> 老年層使用。

他の植物を追いやるためジゴク（地獄）であり、また葉が蕎麦の葉ににているため。

- 27) いたどり (N.R)
28) からすうり (カラスウリ [ka「rasü」:ri] <名>)
29) すみれ (スマレ [sü「mire」] <名>)
30) 春蘭 (N.R)
31) 母子草 (N.R)
32) ねむの木 ネブッタ [ne「bu」tta] <名> 中～老年層使用。
夜になると葉が眠ったような状態になるため。
33) 車前草 カエルッパ [ka「eru」ppa] <名>
34) 松の実 マツダンゴ [ma「tsüda」ggo] <名>

IV <性向>

- 35) 熱しやすく冷めやすい人 (アキッペーヒト [a「kippe」çi:to])
36) あわてん坊 (セッカチ [「se」kkatçi] <名>)
37) 動作の鈍い人 (ノロマ [no「roma」] <名>)
38) 嘘つき (ウソツキ [u「so」tsüki] <名>)
39) ほらふき (ドボラフキ [do「bora」*uki] <名>)
40) おしゃべり (オシャベリ [o「ça」beri] <名>)
41) 冗談をいう人 (ヒョーキモノ [ço「:kimmono」] <名>)
42) 口先だけの人 (ドボラフキ [do「bora」*uki] <名> *36と同じ)
43) とんちんかんなことをいう人 (イカレテル [i「kareteru」] <動>)
44) のらりくらり煮えきらない人 (N.R)
45) 怒りっほい人 (キミジッカ [ki「mizikka」] <名>)
46) むら気な人 (オテンキヤ [o「teçkija」] <名>)
47) 泣き虫 (ナキムシ [na「kimuçi」] <名>)
48) おてんば娘 (オトコマサリ [o「tokoma」sari] <名>)
(ヤンチャ [ja「ntça」] <名・形動>)
49) 腕白坊主 (イタズラッコゾー [i「tazürakkozo」:] <名>)
50) でしゃばり (サキバシリ [sa「kibaçiri」] <名>)
51) どこへでも顔をだす人 モノズキ [mo「nozü」ki] <名>
何にでも関心を持つため。
52) 家にこもって外出しない人 (デブショー [de「bu」ço:] <名>)

- 53) 小心者 (オドロッパシ [o^ɾ doroppaçi] <名>)
- 54) 内弁慶 (ウチベンケー [u^ɾ tçi be^ɾ ŋke:] <名>)
- 55) 人付き合いをしない人 ケチ [「ke^ɾ tçi] <名> 中～老年層使用。頻度盛。
人付き合いをすると出費がかかるが、その出費を惜し
んでいるため。
- 56) 妻に対して頭の上がない人 (ニホンボ [ni^ɾ ho^ɾ mbo] <名>)
- 57) けち (ケチ [「ke^ɾ tçi] <名>) 中～老年層使用。
- 58) 欲張り (ヨクバリ [jo^ɾ kuba^ɾ ri] <名>)

V <食生活>

- 59) 大食漢 (オーグライ [o^ɾ :ɟu^ɾ rai] <名>)
- 60) ぼたもち (ボタモチ [bo^ɾ ta^ɾ motçi] <名>)
- 61) 砂糖味が薄い (甘さが足りない) (サトータンナイ [sa^ɾ to^ɾ :tannai])
- 62) 塩味が足りない (シオケガタンナイ [çi^ɾ oke^ɾ gatannai])
- 63) 大酒飲み ソコノケ [so^ɾ konoke] <名> 中～老年層使用。
ソコヌケ (底抜け) からの音韻変化。底が抜けている
ようにいくらでも酒を飲むため。
- 64) 酒に酔ってくだをまく (サケガキートル [sa^ɾ kegaki:teru])
- 65) 酒に酔って顔が赤くなるさま キンタロー [ki^ɾ ntarō:] <名> 老年層使用。
金太郎は顔が赤いため。

VI <動作・様態>

- 66) 恥ずかしくて顔が赤くなるさま (カオカラヒーデル [ka^ɾ okaraçi^ɾ :deru])
- 67) どしゃぶり雨 (ジアメ [dʒi^ɾ ame] <名>)
- 68) びしょ濡れになるさま (ドブネズミ [do^ɾ bune^ɾ zūmi] <名>)
- 69) 服装がだらしないさま (ダラシガナイ [da^ɾ raçi ɟana^ɾ i])
- 70) 髭がのび放題のさま (ブショーヅラ [bu^ɾ ɕo:zūra] <名>)
- 71) 厚化粧をしている人 カベヌリ [ka^ɾ benuri] <名> 若～老年層使用。
壁塗りをしたように化粧が厚いため。
- 72) 背丈の高い人 ハンショードロボー [ha^ɾ ũɕo:do^ɾ robo:] <名>
老年層使用。頻度稀。

高い所にある半鐘（火事の警報用として、火の見やぐらの上に取り付けた小さな釣鐘）ですら、持って行くことができるということから。

- 73) 出びたい (N.R)
- 74) 汗が額からながれおちるさま
シオフキ [çi「oφu「ki] <名> 老年層使用。
汗が乾いた後、大量の塩が残るため。
- 75) 目を丸くする (トンキョズラ [to「gkjözüra] <名>)
「トンキョ」とは「キョトン（あっけにとられている様子）」から来ているとのこと。
- 76) 口をとがらす ツノクチ [tsü「noku「tçi] <名>
突き出した口が角のようだから。
- 77) 焦げ臭い（肉や魚等） (コゲクサイ [ko「gekusea「i] <形>)
（紙や綿等） (キナクサイ [ki「nakusea「i] <形>)
- 78) 遠廻り (トンマーリ [to「mma「:ri] <名>)
- 79) 末っ子 (スエッコ [sü「ekko] <名>)
- 80) 一生懸命頑張る (N.R)
- 81) 坊主頭 イガグリ [i「gaɟuri] <名>
頭のようにすがいが栗に似ているため。

おわりに

千葉県松戸市は東京都葛飾区に隣接しているが、推量・意志の助動詞「べー」を盛んに使用するなど、方言色のある地域である。今回話を賜った谷口氏は農業を職業としており、東京都の築地市場まで野菜を卸しに行くとのことであるが、谷口氏のことばには方言的特徴が随所に見受けられた。

音声表記で [i] [e] と表記したのもでも [i̥] [e̥] に近い発音も多かった。それは北関東方言で観察されるほどではないが、東京方言の [i] [e] とも違うものである。語中の [k] [t] についても多少の有声化が観察できた場合もあったが、やはり [k̥] [t̥] と表記するほどではないと判断した。

(参考文献)

上野善道 (1984) 「新潟県村上市方言のアクセント」 (『金田一春彦博士古稀記念論文集 2』三省堂)

(はやの しんご アルファ国際学院)